

第 127 期

中間事業報告書

平成21年 4 月 1 日から
平成21年 9 月30日まで



ISO9001 認証
JQA-1050



ISO14001 認証
JQA-EM0365

大阪府東大阪市四條町12番8号

株式会社 ロブテックス



SEA TO SUMMIT 2009 (皆生・大山 9月19日～20日開催)

「SEA TO SUMMIT」は、海から山へ自力で進むなかで自然の循環を体感し、自然の大切さについて考えようという「環境イベント」です。

この「環境イベント」に当社は協賛致しました。

イベント内容

1. 環境シンポジウム

基調講演「森から未来をみる」

2. 「SEA TO SUMMIT」

皆生海浜公園をスタート

海のステージ（カヤック 6 キロ）



里のステージ（自転車 19 キロ）



山のステージ（ハイク 3.5 キロ）

ゴールの大山山頂を目指す大会です。



ゴールの大山山頂にて



当社取締役営業本部長より入賞者へ表彰

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととおよろこび申し上げます。

さて、ここに第127期の中間事業報告書をお届けいたしますので、ご高覧たまわりますようお願い申し上げます。

当中間期のわが国経済は在庫調整の進展や経済対策効果により一部に景気の持ち直しが見られましたものの、昨秋以降の急激な世界規模の景気後退の影響が継続し、雇用情勢の悪化や個人消費の低迷、設備投資が抑制されるなど、厳しい状況で推移しました。

このような状況の下、当社グループは2009年度の経営スローガンとして「グループ全員一丸となり、飛躍に向けての足場を固め、新しいロブテックスを創る」を掲げ、グループ全員が同じ思いを持ち、何を成すべきかを考え、企業体質の更なる改善による基礎固めを行い、創業120年の歴史を超え、新たに「新生ロブテックス」へと変革する初年度として活動してまいりました。営業部門におきましては、マーケティング機能を充実させ、商品戦略の方向性を明確にいたしますと共に、特約店制度におけるポイント制の実施やエンドユーザーへの営業活動の深耕による売上確保並びに営業サポート部門の設置による営業活動の効率化を図ってまいりました。生産・開発部門におきましては、多能工化・標準化・単純化によるスリムな生産体制での利益確保や高付加価値商品への取り組みによる生産技術力の強化を目指しますと共に、提案型商品及び次世代商品の開発を強化し、売上の伸長を図ってまいりました。その結果、売

上高は前年同期比28.6%減の21億9千万円（前年同期30億6千6百万円）となりましたが、利益面では、営業利益で1億3千1百万円（前年同期は1千9百万円の営業損失）、経常利益で9千2百万円（同5千5百万円の経常損失）、中間純利益で4千4百万円（同5千5百万円の純損失）と利益を確保することができました。

事業別の概要は次のとおりです。

<金属製品事業>

売上につきましては、国内・海外共に拡販に注力いたしましたが、昨年来の景気後退の影響を受け、前年同期に比し各品種において減少し、売上高は前年同期比30.1%減の20億4千6百万円（前年同期29億2千8百万円）となりました。利益面では、売上は大幅に減少いたしましたものの、人件費のみならず徹底した経費削減を行いました結果、利益率が改善し、5千万円の営業利益（同9千3百万円の営業損失）となりました。

<レジャー事業（ゴルフ練習場）>

入場者増加施策が奏効し、売上高は前年同期比4.7%増の1億4千4百万円（前年同期1億3千7百万円）となり、営業利益は同9.2%増の8千万円（同7千3百万円）となりました。

株主のみなさまには、変わらぬご支援、ご指導をたまわりますようお願い申し上げます。

平成21年12月

取締役社長

地引俊爲

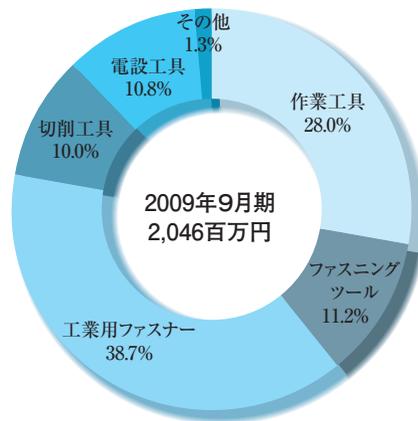
連結業績の推移

● 営業成績

区分	第120期 (2003年 3月期)	第121期 (2004年 3月期)	第122期 (2005年 3月期)	第123期 (2006年 3月期)	第124期 (2007年 3月期)	第125期 (2008年 3月期)	第126期 (2009年 3月期)	第127期 中間期 (2009年 9月期)
売上高 (百万円)	5,034 (2,337)	5,454 (2,618)	5,765 (2,729)	5,992 (2,934)	6,167 (2,975)	6,492 (3,068)	5,291 (3,066)	(2,190)
経常損益 (百万円)	10 (2)	228 (73)	366 (145)	384 (98)	203 (143)	94 (17)	△ 344 (△55)	(92)
当期純損益 (百万円)	47 (△68)	73 (13)	192 (62)	353 (149)	358 (89)	△ 114 (△91)	△ 334 (△55)	(44)
1株当たり 当期純損益 (円)	4.23 (△5.97)	6.90 (1.21)	17.26 (6.15)	35.47 (15.86)	37.24 (9.50)	△11.72 (△9.34)	△35.31 (△5.80)	(4.73)

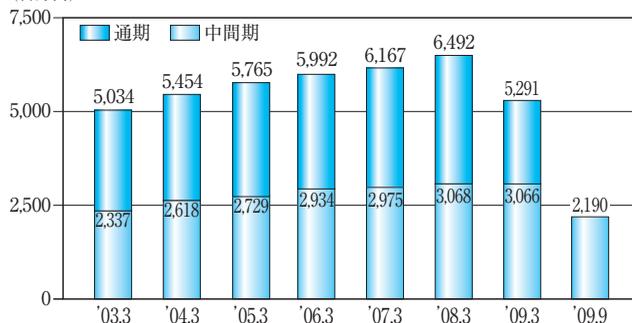
(注) () は中間期の数値であります。

● 金属製品事業における品種別の売上高構成比



● 売上高

(百万円)



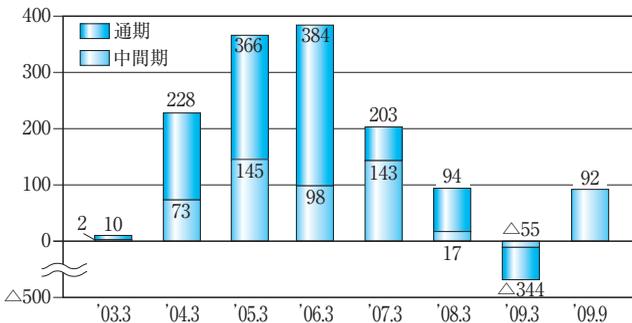
● 当期純損益

(百万円)



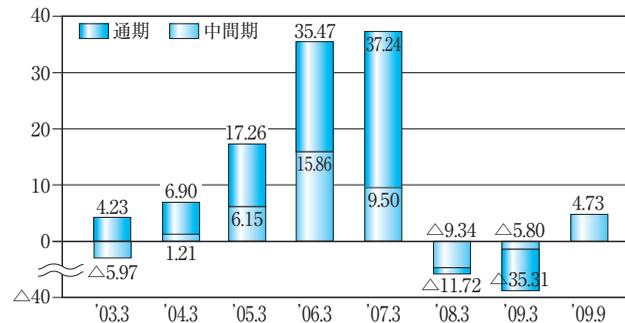
● 経常損益

(百万円)



● 1株当たり当期純損益

(円)



中間連結財務諸表

● 中間連結貸借対照表

平成21年9月30日現在

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	3,546,894	流動負債	3,427,681
現金及び預金	1,096,745	買掛金	190,143
受取手形及び売掛金	755,970	短期借入金	2,582,846
商品及び製品	970,804	1年内償還予定の社債	300,000
仕掛品	290,848	未払法人税等	25,571
原材料及び貯蔵品	347,847	その他	329,120
その他	86,603	固定負債	1,874,007
貸倒引当金	△ 1,926	社債	500,000
固定資産	3,480,620	長期借入金	796,368
有形固定資産	3,013,121	退職給付引当金	24,567
建物	1,143,715	役員退職慰労引当金	3,120
土地	741,388	その他	549,952
その他	1,128,018	負債の部合計	5,301,689
無形固定資産	93,772	(純資産の部)	
投資その他の資産	373,727	株主資本	1,678,238
繰延資産	5,381	資本金	960,000
資産の部合計	7,032,896	資本剰余金	491,045
		利益剰余金	375,043
		自己株式	△ 147,850
		評価・換算差額等	8,978
		その他有価証券評価差額金	8,978
		少数株主持分	43,990
		純資産の部合計	1,731,207
		負債及び純資産合計	7,032,896

(注) 記載金額は千円未満を切捨てて表示しています。

● 中間連結損益計算書

平成21年4月1日から
平成21年9月30日まで

(単位：千円)

科 目	金 額	
売上高		2,190,958
売上原価		1,425,790
売上総利益		765,167
販売費及び一般管理費		633,929
営業利益		131,238
営業外収益		
受取利息	562	
受取配当金	1,168	
仕入割引	3,304	
その他の	14,702	19,738
営業外費用		
支払利息	35,081	
売上割引	17,940	
その他の	5,390	58,412
経常利益		92,563
特別利益		
投資有価証券売却益	25	
貸倒引当金戻入額	6,791	6,816
特別損失		
固定資産除却損	342	
その他の	12,534	12,876
税金等調整前中間純利益		86,503
法人税等		37,878
少数株主利益		4,083
中間純利益		44,541

(注) 記載金額は千円未満を切捨てて表示しています。

● 中間連結キャッシュ・フロー計算書 平成21年4月1日から
平成21年9月30日まで

(単位：千円)

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	339,637
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 15,025
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 235,582
現金及び現金同等物の増加額	89,029
現金及び現金同等物の期首残高	1,007,716
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,096,745

(注) 記載金額は千円未満を切捨てて表示しています。

● 中間連結株主資本等変動計算書

平成21年4月1日から
平成21年9月30日まで

(単位：千円)

	株 主 資 本				評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計	
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金			評価・換算 差額等合計
平成21年3月31日残高	960,000	491,045	330,502	△ 147,559	1,633,989	7,434	7,434	40,912	1,682,335
中間連結会計期間中の変動額									
剰余金の配当									
中間純利益			44,541		44,541				44,541
自己株式の取得				△ 291	△ 291				△ 291
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の 変動額(純額)						1,544	1,544	3,078	4,622
中間連結会計期間中の変動額合計			44,541	△ 291	44,249	1,544	1,544	3,078	48,871
平成21年9月30日残高	960,000	491,045	375,043	△ 147,850	1,678,238	8,978	8,978	43,990	1,731,207

(注) 記載金額は千円未満を切捨てて表示しています。

● 子会社

平成21年12月1日現在

会 社 名	株式会社ロブテックス ファスニングシステム	鳥取ロブスターツール 株式会社	株式会社ロブエース	株式会社ロブテックス アンカーワークス	株式会社ロブメディカル
設 立	昭和63年7月2日	平成2年12月6日	平成3年8月8日	平成20年6月4日	平成20年6月4日
資 本 金	1,000万円	5,000万円	5,000万円	1,000万円	1,000万円
住 所	東京都中央区日本橋 堀留町1-5-11 堀留Dビル5階	鳥取県西伯郡大山町 高田1213番地1	大阪府八尾市上尾町 6丁目1番地	大阪府東大阪市四条町 12番8号	大阪府東大阪市四条町 12番8号
事 業 内 容	ファスニングツール 工業用ファスナー卸売業	金属製品製造業	ゴルフ練習場	アンカーの製造販売	医療機器の製造販売
代 表 者	代表取締役社長 川邊裕一	代表取締役社長 鈴木治	代表取締役社長 平田正紘	代表取締役社長 地引俊為	代表取締役社長 地引俊為

会社の概要

平成21年9月30日現在

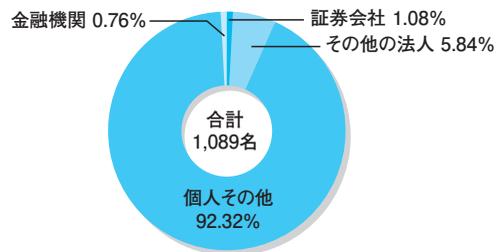
設立 大正12年8月12日
資本金 960,000,000円
発行済株式総数 10,000,000株
本店所在地 東大阪市四条町12番8号
従業員数 87名
製造販売品目 作業工具
ファスニングツール
電設工具
切削工具
工業用ファスナー

事業所

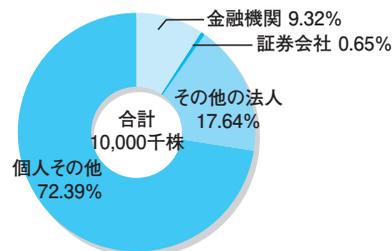
本社／東大阪市四条町12番8号（〒579-8053）
☎072-980-1110(代)
大阪営業所／東大阪市四条町12番8号（〒579-8053）
☎072-980-1111(代)
東京営業所／東京都板橋区高島平2丁目6番4号（〒175-0082）
☎03-3550-3671(代)
名古屋営業所／名古屋市北区八竜町1丁目40番地（〒462-0805）
☎052-915-0431(代)
福岡営業所／福岡市博多区山王1丁目7番9号（〒812-0015）
☎092-431-0395(代)

株式の状況

発行可能株式総数 45,000千株
発行済株式総数 10,000千株
株主総数 1,089名
所有者別



所有数別



役員

取締役社長 (代表取締役)	地引俊為
専務取締役	行俊直彦
取締役	豊島尚規
取締役	田邊浩樹
取締役	山口正光
監査役(常勤)	林邦男
監査役	稲垣貞男
監査役	藤本昇

エビ印工具



LOBSTER®



株 主 メ モ

事業年度
定時株主総会
基準日

4月1日から翌年3月31日まで
毎年6月に開催いたします。
定時株主総会の議決権 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
※その他必要がある場合は、あらかじめ
公告する一定の日

公告方法

電子公告により行います。
<http://www.lobtex.co.jp/lobtex/ir/>
ただし、電子公告によることができ
ないやむを得ない事由が生じた場合は、
日本経済新聞に掲載いたします。
なお、当社の貸借対照表ならびに損
益計算書は、EDINET（金融商品取引
法に基づく有価証券報告書等の開示書
類に関する電子開示システム）にて開
示しております。

株主名簿管理人

大阪市中央区北浜二丁目4番6号

同事務取扱場所

株式会社だいこう証券ビジネス
株式会社だいこう証券ビジネス 本社証券代行部
〒541-8583 大阪市中央区北浜二丁目4番6号
電話 フリーコール 0120-255-100